



元気に歩いた油山登山



先月の 30 日(火)、年長さんが、恒例の油山登山に挑戦しました。天気も味方し、絶好の登山日和でした。私も、歩くのが好きですから、毎年、子どもたちと一緒に登ることを楽しみにしています。子どもたちは元気がよく、幼稚園児と決して侮るなかれといった感じで、最後まで歩き通しました。

完歩した子どもたち一人一人の顔は、達成感、成就感に満ち溢れ、何とも言えない素晴らしい顔をしていました。全員、健やかな汗を流しました。

歩き始めて間もなく、子どもの中には、冗談半分に、「きつか〜」「まだ遠い?」と甘えた子もいます。一人が言うと、同調して「きつか〜」と言い出す子もいます。しかし、子どもたちは、甘えても、泣き言を言っても、誰もおんぶしてくれたり、抱っこしてくれたりする人がいないことを知っていますから、自分にムチ打って再び歩き出します。

引率教員は、誰もが、「もう少し!」「あと半分よ、ガンバレ、ガンバレ!」と声を掛けたり、一緒に歌ったりして子どもたちを励ましています。子どもたちも、「手のひらを太陽に」を歌いながら登りますが、歌いながら登るのって結構きついものがあります。先生も、子どもたちも、息遣いが少々荒く感じました。いかがだったでしょうか。

森林浴を浴びながらの年長さんの油山登山コースは、そんなにハードルが高くもなく、だからと言って決して低くもなく、きつさを我慢すれば到達できる適度な山登りのコースだと思いました。

展望台から見える福岡の街や博多湾、能古島に感動し、思わず、みんなで「ヤッホー」の雄叫び。

「私の家はどこかな?」「先生、幼稚園はどの方向なの?」みんなワイワイ、ガヤガヤ。目のよい子どもは、「ヤフドームの屋根が全開になっている!」美しき眺めに、みんなご満悦でした。

一つのこと

保護者の皆さんは、次の詩を聞いたことがありませんか。日本有数の教育実践家として有名な斉藤喜博先生が作られた詩で、卒業式によく歌われます。

いま終わる	明日登る	遠い道	人は続き	桑の海	響き合う	風渡る	いま超える	いま終わる	一つのこと
一つのこと	山も見定め	はるかな道	道は続く	光る雲	こころの歌	草原(くさはら)	一つのこと	一つのこと	一つのこと

一つのこと 斉藤 喜博

「今、一つのことを成し遂げようとしている。それは、今、高い山を登ったことと同じである。山に登ると、心地よい爽やかな風が草原から吹いてきているのではない。麓を見渡すと一面に桑畑が広がり、雲がなびいている。遠くに山道を登ってくる人の姿が見える。目の前には、新たな山が聳え、道が続いている。さあ、次に登る山を目指して、新たな挑戦の始まりである。」

こんな意味だったと思います。油山登山を経験した子どもたちは、これから先、様々な事に会おうでしょうが、少々ハードルが高くても、やればできるという自信を持って進んでいくことでしょう。幼児期から少年期にかけて、困難を乗り越える体験の積み重ねが、生きる力の基礎となると思います。

甘〜い、幼稚園の枇杷

今年も幼稚園の枇杷が、テニスコート側と台所側に、たわわに実りました。幼稚園の枇杷は、カラスの標的になるくらい、毎年、甘〜い実をつけます。早速、冷やして、全員で収穫の喜びを味わいました。

初めて幼稚園の枇杷を口にする年少さんも、小さな手で、上手に皮を剥き、そして、「美味しいー」の歓声を上げていました。台所の前の枇杷も黄色に色づいています。

今週中に子どもたちの口に入る予定です。楽しみです。

